

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大谷場小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	
思考・判断・表現	

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	【学習上の課題】 ・国語「話すこと・聞くこと」「読むこと」 ・算数「図形」変化と関係 【指導上の課題】 基礎的・基本的な知識・技能の定着に、個人差がみられる。児童が反復・習熟に取り組む時間の確保が不十分である。	⇒ ・算数では、ITを効果的に取り入れて指導を行ったり、各児童の学習理解度に合わせた学習を行ったりする等、個別最適な学びが行えるような環境を整える。 【単元に1回以上】 ・「ドリルパーク」等個別に蓄積されたデータを効果的に活用しながら、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組めるようにする。【週に2度】 ・1人1台端末を活用し、学びのポイント「じ・し・ゃく」を意識した児童主体の授業を行う。【毎日】
思考・判断・表現	【学習上の課題】 ・国語「書くこと」「読むこと」 ・算数「図形」変化と関係 【指導上の課題】 自分の考えをまとめたり、進んで発信したりすることに意欲的でない場面がみられる。子どもたちが安心して、主体的に活動できる環境を整えることに不十分である。	⇒ ・協働的な活動を通して、相手意識をもって適切な表現で考えを書き表し、自信をもって相手に伝えられるような機会を多く取り入れた授業を実践していく。 【毎日】 ・児童一人ひとりが、自分の頑張りを素直に認め、他者の頑張りを見つけて認め合える授業を展開していく。【全教員による教育実践の実施】 ・読解力向上のために、読書活動の充実を図る。【朝読書の複数回実施】

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等	
思考・判断・表現		

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	令和7年度全国学力・学習状況調査(国語・算数)の「知識・技能」において、全国平均と比較し、正答率は国語と算数ともに上回った。特に国語の「正しい漢字の使い方」についてや、算数の計算問題、図形に関する問題などでは、全国平均の正答率を大きく上回った。個々に応じた必要な基礎・基本の反復学習を進めてきた成果であるといえる。一方、算数における「数直線上に示された数を分数で書く」問題の正答率が、他の問題に比べて低かった。日常生活を絡めながら、活用できる知識・技能を習得させられるような授業展開を行っていくよう努めていく。また、より一層、朝のパワーアップタイム等を活用しながら、児童一人ひとりに合った問題を反復し、習熟していくような活動を継続していく。	
思考・判断・表現	令和7年度全国学力・学習状況調査(国語・算数)の「思考・判断・表現」において、全国平均と比較し、正答率は国語と算数どちらも上回った。特に、昨年度の課題であった「読むこと」の領域に関する正答率が高く、読書に力を入れて文章を読む活動を増やすとともに、文章から要点を読み取ったり、自分の考えをまとめたりする活動を重点的に行ってきた成果であるといえる。「書くこと」の領域は他の問題に比べて低めなので、文章から要点を読み取ったり、自分の考えを限られた文字数でまとめたりする活動を重視していく必要がある。算数では、「共通する単位分数を見つける」問題が他の問題よりも正答率が低かった。「知識・技能」の観点の時と同じように、日常生活を絡めながら、活用できる「思考・判断・表現」の力を習得させられるような授業展開を行っていくよう努めていく。	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能		
思考・判断・表現		

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	算数を中心に、学年によっては複数の教職員で児童の指導・支援にあたることができた。また、週に複数回、「ドリルパーク」等個別に蓄積されたデータを効果的に活用しながら、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組むことができた。 今後とも1人1台端末を活用し、学びのポイント「じ・し・ゃく」を意識した児童主体の授業を行っていく。	個別のデータを授業アンケート等も行いながら教職員が把握できるようにするとともに、児童が確認する時間を設定するなど、自身の学習状況を踏まえ見直しをもつて学ぶことができるようにする。【単元に複数回実施】
思考・判断・表現	B	どの教職員も、相手意識をもって適切な表現で考えを書き表し、自信をもって相手に伝えられるような機会を多く取り入れた授業を実践するよう努めた。 全教員による教育実践は、2学期以降に実施する予定している。自尊感情を一層高めていくとともに、児童一人ひとりのよさを生かした個別最適な授業を行っていく。また、読解力向上のために、読書活動の一層の充実を図っていく。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)